

A013 京都の歴史遺産 - その保護と継承 -	
英名科目名	
大学名	京都橘大学
連絡先	学務第1課 TEL: 075-574-4324 FAX: 075-574-4134
担当教員	増淵 徹 (文学部歴史学科教授)
開講期間	2021年09月14日(火)~2021年09月17日(金)の4日間連続 2~4講時 10時50分~16時00分 (9/14) 1~4講時 9時00分~16時00分 (9/15~9/17)
開講形態	夏期集中 開講曜日・講時
単位数	2 履修年次 1回生以上
会場	キャンパスプラザ京都、他
授業定員	
単位互換生定員	30 京カレッジ生定員 10
試験・評価方法	レポート(50%)、授業中課題(30%)、参加度(20%) 全授業に出席しても最終レポートが未提出の場合は単位の認定はできない。
超過時の選考方法	書類選考
受講料	科目等履修生: 32,000円
別途負担費用	見学に際して必要な交通費や入館料は個人負担となります。
その他特記事項	<p>【準備学習】 たくさんの文化遺産に興味をもち、自身で問題意識をもってほしい。</p> <p>【課題の内容】 およそ2講時分につき1回、講義に関する疑問点や提案・感想などをミニレポートとして提出してもらう(「授業中課題」の扱い)。</p> <p>【課題に対するフィードバック】 具体的な疑問点に関しては、可能な限りメモの形で返答する。</p> <p>【履修上の注意点】 歴史遺産について関心をもち、自ら質問する姿勢を求め。また、受講経験を活かして歴史遺産をたくさん見てほしいので、その積極性をもつ学生(できれば下回生)を歓迎する。</p>
パッケージ科目	
低回生受講推奨科目	
講義概要・到達目標	
<p>【テーマ】 京都の歴史遺産とその保護・活用</p> <p>【授業の到達目標】 京都市内に残る遺跡・建造物・庭園・美術工芸品・民俗文化財などの多様な文化遺産を知るとともに、文化財保護行政の現状を理解し、遺産の保護・活用・継承に対する課題認識を深めることを目標とする。</p> <p>【授業の概要】 京都市文化市民局文化財保護課の技師の方々を講師に、市内の各種の文化遺産とその特徴、及び調査や保護・活用の取り組みと課題について解説する形式で進めるが、うち2~3回の現地見学をとまなう(集中講義)。各日、2時間程度を1単位としてミニレポートを提出するとともに、集中講義の終了後に2500字程度のレポートを提出し、それらを以て成績を評価する。 各回の具体的な授業内容・見学予定については、集中講義の実施前にあらためて通知する。なお、実際に2019・2020年度授業で講義している分野は以下のとおりで、2021年度においてもこれらを軸に組み立てる予定である。文化財保護制度の沿革、京都市の文化財総論、文化財環境保全地区、史跡、名勝、建造物、美</p>	

術工芸品、埋蔵文化財、民俗文化財、文化的景観、無形文化財、文化財の保護・活用総論

【教育目標】

- ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ・知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成
- ・異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成
- ・歴史に関する知的好奇心を高め、学問を主体的に学ぶ姿勢を身につける。
- ・多彩な学問分野の成果を吸収し、歴史研究に役立てる重要性を理解する能力を修得する
- ・総合的かつ探求的な学修を通じて、人類の作り上げてきた社会・経済・政治・文化に対する深い関心と理解力を修得する

講義スケジュール

- 第01回 集中講義の進め方の解説、及び歴史遺産(文化財)の概説
- 第02回 京都市における歴史遺産(文化財)保護と活用の仕組み
- 第03回 京都の文化遺産の保護と活用(各論)(以上、第1日)
- 第04回 京都の文化遺産の保護と活用(各論)
- 第05回 京都の文化遺産の保護と活用(各論)
- 第06回 現地での見学学習
- 第07回 現地での見学学習(以上、第2日)
- 第08回 京都の文化遺産の保護と活用(各論)
- 第09回 京都の文化遺産の保護と活用(各論)
- 第10回 現地での見学学習
- 第11回 現地での見学学習(以上、第3日)
- 第12回 京都の文化遺産の保護と活用(各論)
- 第13回 京都の文化遺産の保護と活用(各論)
- 第14回 集中講義のまとめ(文化遺産の保護と活用)(以上、第4日)

教科書

参考書